

学校教育の構造と転換

現代日本の教育改革を批判する

【事前課題】

近年の日本の「教育改革」に関する下記の意見を評価しなさい。

下記の意見について、○（賛成）、×（反対）、△（どちらともいえない）を明記した上で、そのように考える理由を200字程度で記述しなさい。

「従来の日本の学校教育は、集団的規律を重視し、知識偏重の一方的な詰め込み式だった。こうした教育には、公共心や基礎知識の涵養など一定のメリットもあった。しかし、生徒の自主性・主体性や個性の軽視、狭義の学力に特化した過度の競争主義といった負の側面もあった。また国際化・情報化の進展、気候変動をはじめとする環境問題の深刻化など、社会全体が大きく変化してきた。社会の複雑化に伴い、学校でも「いじめ」や不登校といった問題が顕在化してきた。

そこで日本では近年、学校教育の改革が進められている。生徒を一方的に管理する教育体制（「ブラック校則」等）が見直されている。また生徒の自主性・主体性・個性、意欲・態度・関心を重視する「新しい学力観」に基づき、双方向的授業をはじめとするアクティブラーニング等が試みられている。大学入試でも、多様な個性や非認知能力を評価しつつある。国際理解・異文化理解、情報リテラシー、環境等に関する教育、および人権を守るジェンダー教育や「命の大切さ」を学ぶ教育、法律家や心理カウンセラー等の専門家による教育現場への支援も徐々に拡充されつつある。さらに公立夜間中学が増設され、不登校者や学齢期に義務教育を受けられなかった人々にも教育機会が保障されつつある（2016年、教育機会確保法）。

このような学校教育の改革は、まだ不十分な点も多いが、全体として正しい方向に進んでいると評価できる。」